
10%の女。

睦月りこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

10%の女。

【コード】

N8959N

【作者名】

睦月りこ

【あらすじ】

昼休みのホッとできるひと時。ふと目に付いたアンケート結果にどこかほっとする私。27歳で”まだ”だっていいじゃない。

(前書き)

初投稿です。

昼休み。

時々、1人になりたくて、誰も残っていないオフィスでランチをとる事がある。

金欠とかそんなんじゃないで、なんとなく大勢が鬱陶しい時にね。

社会に出て5年目。

27歳のお局ちよい前の私。

ときどき若い子達の話についていけない時があつて、はあく〜つて大きく息を吐きたくなる。

そんな時に　ひとりランチ　をとるようになったのは今年の春からだつた。

弁当派の人も多いが、自席で広げる人はあまりいない。

大抵が気分転換にリラックルームや屋上など場所を変えたがるからだ。

だから私はその逆手をとつて、ほぼ無人のオフィスで伸び伸びとしてる。

今朝、出勤途中で買ってきたサンドイッチを食べながら、携帯でニュースサイトをみる。

会社のPCは外部サイトにアクセスできないから仕方がない。

小さな画面を眺めながら人差し指で下から上へとスクロールしていく。

気になるニュースといつてもエンタメかスポーツなだけだね。

”初キスの年齢ランキング（20代女性編）”

ん？

ふと目に飛び込んだニュース項目。

Q 初キスの年齢は？

1位	19歳	13.2%
2位	20歳	11.7%
3位	18歳	11.3%
3位	まだキスをしたことがない	10.6%
5位	9歳以下	7.9%

ふうふうん……割と遅いもんだね……それに、20代でキス未経験者って一割もいるんだ。

「10%……かあ……」

どこかホツとしながら、つい口にだしてしまった。

ん？…ふつと背後に人の気配。

「牧田あ… お前、こういうの読んだりするんだ」

げえっ…匡史だ。

背後から携帯を覗き込んできたのは、同期で唯一同じ部署の田上匡たがみまさし

史だった。

…くすつ。

匡史が笑った。

「なによ？」

その笑い方が癩に障って、ちょっとだけツンとして尋ねると

「お前……まさか10%？」

！……！！ ……じいつう…。

凶星を指され私が答えずにいると、ギシって椅子の背もたれが鳴る。
匡史が手をかけたからだ。

「マジで？」

びくっ…と微かに震える。

左耳のすぐそばで匡史の音がする。

「……そいつの、やめてよ」

「そいつの”っ”って何？」

こいつは、時たまこういうことを仕掛ける奴なんだ。

まてまて、状況を整理しよう。

匡史のペースに乗せられないようにザワザワする心を鎮めようと、自分の状態を確認する。

私の左手には携帯電話。

右手には食べかけのサンドイッチ。

背後には、右手を背もたれにかけて、

私の左後方から寄り添うように携帯を覗き込んでる匡史。

もう！ ……なんで、こんなに密着してんの？

「変に思われるから、離れてよ」

「……………だな」

意外、すんなりと離れていく匡史。

音が出ないように ほう……っと息を吐く。

気づかないうちに息をつめていたようだ。

背もたれから手を離れた匡史は、隣のデスクに腰を持たせかけて足を交差させた。

「お前、まだなの？」

そこ、掘り下げる？

答えたくないですオーラを放出しているのに、絶対ワザとだろ。

「わざわざ聞くかなあ？ ……悪趣味じゃない？」

呆れてそう答えると、匡史は肯定と受け取ったのか、それ以上は言っただけだった。

「俺さ、ちょっと相談したいことがあってさ…」

「……何よ？」

「…今夜、飯いつきあわねえか？」

「珍しいね、相談なんて…」

ちらつと匡史の方を見上げると、どことなく所在無さげに自分の髪をあたつてる様子が見えかける。

「…でさ、どっか？」

「ああ、……うん、いいけど…」

相談っていうのは無かったけど、二人で飲みに行くことは偶にある。

「じゃ、7時に下で」

そう言って、ぽんと肩を叩いて離れて行った。

ふわ…ん…と、匡史のいつもの香りがする。

その香りに意識が向いていると、

「あ、紗和」

行きかけに、匡史がもう一度声をかけてくる。
やめてよ、どきっ…とするじゃない。

「…仕事場では、名前で呼ばないでよ」

「ああ、ワリい…」

「ああ……あのなあ……別に、いいと思ひよ… 100%。」

「はあ〜?」

思いつきり、呆れた顔のまんま匡史の方を見やると、すでにパーティーションの向こう側に行っていた。

「（もう！）……：気にしてませんから〜」（怒）「

声に怒りを乗せて言い返すと、匡史の背中が クックツツ… と震えて笑ったように見える。

「無理すんなって」

む〜〜か〜〜つ〜〜く〜〜〜！

どうして、匡史にはこんなところばかり見られちゃうんだろ。手に持ったままで少し乾燥してきたサンドイッチに、当たるようにガブっとかぶり付いても
発散できない恥ずかしさに少し顔が赤くなる。

もう！

息抜きしたくて独りになってたのに、匡史のせいで余計に溜めこんじゃったよ。

……。
でも、匡史の相談てなんだろ？

(後書き)

稚拙な話を読んでくださってありがとうございます。

本文内にも書かれてる「ファーストキスの年齢」についてのアンケートニュースを思いついた話です。

勢いで、男性視点も書きたいな〜と思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8959n/>

10%の女。

2010年10月10日06時56分発行